

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（8月定例会）会議録
開催日時	平成26年8月18日（月曜日）午後2時から4時30分まで
開催場所	保谷庁舎3階 会議室
出席者	委員：須永議長、内田副議長、川崎委員、木下委員、操野委員、沼本委員、服部委員、原委員、森田委員、矢野委員 事務局：山本課長、吉田係長、神田主査（傍聴 1名）
議題	(1) 平成26年度社会教育関係団体補助金について (2) 今後の社会教育行政の運営体制について (3) その他
配布資料	資料1 西東京市社会教育関係団体に対する補助金交付に係る申請及び実績報告の審査等の基準 資料2 平成26年度社会教育関係団体交付決定関係資料 資料3 関ブロ大会事例発表原稿
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	

- ・26年7月定例会議の会議録2か所訂正後、承認する。

議題1 平成26年度社会教育関係団体補助金について

事務局：

配布資料1から2に添って、補助金交付決定の経過について説明。

- ・今年度は3団体から申請があった。
- ・予算が40万円のところ、申請額の合計が461,000円となった。予算の範囲内での交付決定とするため案分をし、申請額の85パーセント程度の決定額になっている
- ・過去4回申請のあった団体から、別の事業内容で申請があった。普段、一人で楽器を演奏している子どもを対象にワークショップを開き、成果発表として市民文化祭に参加し、仲間と演奏する体験をさせるという事業である。ワークショップのねらいは、個人の演奏技術を高めるということではなく、子どもたち同士が文化活動を通じた交流を考えている。

「主な質疑応答・意見等」

委員：

今回、説明会は開催されたのか。

事務局：

説明会は開催していない。随時、問い合わせに応じ、個別に時間調整をして説明をした。説明会を開催しても、団体の個別の説明が必要になるので、夜間も含め対応するというので、今回初めて説明会を開催しなかった。今回申請された団体以外にも話を聞きに来た団体はあったが、条件が合わなかったり、申請趣旨が違うなどがあり、申請されなかったようだ。

○議長：

審議の結果、社会教育委員の会議として、平成26年度補助金交付団体及び補助金決定額について承認してよろしいか。

○全委員：

異議なし。

議題2 今後の社会教育行政の運営体制について

1.各部会からの報告内容について検討

議長：

前回の定例会で、今後の社会教育行政の運営体制について部会での検討内容を報告していただいたが、今回も引き続き、意見をお聞きしたいと思う。

「主な意見」

(生涯学習情報について)

委員：

「生涯学習情報」ということについても各委員のイメージが曖昧だと思う。学習情報の種類や範囲について、この会議で共有して、西東京はどこまで情報の整備に関して満足できる状態なのか、何が足りないのかを把握し、今後のあり方について考えていければと思う。実際、情報は調べれば調べるほど、きちんと整理し、更新するのに人手が必要であり、学習相談についても、レベルの高い人材が必要となる。西東京市ではどうか、人材がないのではなく、そういう組織や人材配置になっていないのではないか。

委員：

公民館だよりをみると、公民館事業は、今の社会が抱える課題に取り組んでいると思った。23区に公民館がない事を思うと、西東京市に公民館があることは大切なことであり、社会教育課が、目配りをして、公民館や図書館の抱える課題解決に必要な情報提供などの支援を行うことも必要だと思う。

委員：

生涯学習情報というと、個人のニーズに対応するところもあるが、社会の要請によって必要だとされる学習分野もある。例えば、消費者教育などは個人の要求からは出てこないかもしれないが、学習意欲を喚起することも必要ではないか。それもひとつの大きな生涯学習情報提供ではないだろうか。

委員：

学習相談窓口というと、公民館、図書館をイメージするが、ハローワークの相談の窓口でも、生活困窮者は福祉の相談、勉強の相談、補助金などの相談、支援サービス等の説明もしてくれる。困って、仕事を探す人へのアドバイスも社会教育のひとつではないか。社会教育的な支援はどこでも必要になっていると思う。庁内で把握している相談内容は、市民が切実に求める学習課題の情報源となるのではないか。相談部署と連携することで、今後の学習情報を収集することができるだろう。

委員：

それらの相談をすべて、社会教育がやるとなると大変なので、ここに行けば、問題解決が出来るという情報提供や専門相談機関の情報を持っているだけでも良いのではないか。

委員：

情報提供を総括する場所として「生涯学習センター」を設け、公民館の専門性を持つ嘱託職員など、今いる人材を、うまく生かして、しくみづくりを再構築していくことを提言すれば、実現の可能性があるのではないか。

委員：

やはり、専門職集団が必要ということになるだろう。

(団体支援について)

委員：

団体への支援としては、お金を出すより人的支援の方が大変という側面があるのではないか。

委員：

今回補助金は3団体から申請があったが、今後を見通すと、違う視点で、人的支援の充実や生涯学習情報の整備といった支援により活性化が図られるのではないかという意見もあったと思う。

委員：

補助金以外の支援策として、具体的な事例を示すと説得力があると思う。例えば、団体で企画実施した事業に図書館が協賛という形で、PRやチラシ印刷、申込みの受付等の支援をしてくれたことがあった。図書館が講座費をもち実施してくれたら嬉しいが、それを優先して、職員が減らされたり、図書費が削られたりするよりは、団体が費用を捻出しても協賛という形で支援してもらえればよい。市民としても職員のレベルアップを望んでいるので、こういう機会に職員もかかわって団体と一緒にやっていく事は大事なことだと思う。公民館でもこういった支援があるのではないか。

(今後のまとめ方について)

委員：

部会報告の中で、検討した結果に基づいて今後の方向について提案されていると思うが、それでいいのかといった全体での議論は出来ていないように思う。例えば、第1部会の報告に『補助金に代わる有効な団体支援策が出来るのであれば縮小廃止の可能性も考えられる』とあるが、全体での確認をしていかなければいけないのではないだろうか。

委員：

第2部会で現在の社会教育課をベースにした生涯学習課の創設が課題解決の重要なポイントとなっているが、他の部会では「生涯学習センター」の考え方が示されている。こういったことも全体で議論されていないと思う。

委員：

第2部会報告の4- (2) 2の多岐にわたる社会教育事業を推進する中核的な権限を持つ組織の確立に関しては、みんな合意しているのではないか。

委員：

部会でのそういった提案が、全体討議の事項になると思う。

委員：

社会教育だとか生涯学習のようななかなか効果が見えにくく、評価しづらい分野には予算はつきにくいだろう。行政が社会教育の大切さについてあまり考えていないとすると、提言は、社会教育や生涯学習がいかに地域にとって大事か、社会教育は社会の課題を解決するために必要だということを強調する応援メッセージにしたいと思う。社会教育を充実させると、他の分野にも波及し充実していく、だからこういう施策、組織、人材が重要だということ、抽象的かもしれないが、社会教育が大切だということをポイントとしていくのが良いのではないか。

委員：

社会教育は、行政の中の一部門であり、全てをやっていくのは難しいのではないか。社会教育の視点から、庁内のいろいろな分野に目配りしてどこかの施策に反映させていくというのが、社会教育の役割だろう。

委員：

今回の提言をまとめるにあたっては、前回の提言を参考にするなど、一貫性が必要だろう。予算や人員が足りないということは、提言を受けた行政の方で考える事で、我々は、あるべき政策を提案していくことが大切だろう。教育長に、この政策であれば、予算と人がないが、ぜひ取り組もうと思ってもらうことが肝要だと思う。また、提言する施策内容は、現状維持ではなく、社会教育として育て、活性化させるという発想や視点がなければいけないのではないか。

2. 今後の検討作業について

議長：

これまでの部会からの報告内容について、全体での意見や認識が一致しているかという点とまだそこまで検討されていないように思う。ある程度、それぞれの部会での共通項を探って全体で討議してもらった形をとらないといけないのではないか。これから提言をまとめていくにあたって、そういった調整も兼ねて、提言作成に向けて必要なことを決めていく起草委員会をもって進めていきたい。正副議長と各部会から一人ずつメンバーになっていただくということはどうだろうか。

委員：

部会で提案された内容も、まだ、全体の結論ということでもないだろう。全体で議論をしていく内容がまだ残っている。起草委員会ということにはまだならないのではないか。

議長：

前回提言の時も、起草委員会ではなく小委員会という名称だった。主なメンバーを決め

たとしても、参加できる人が参加するというところでどうだろうか。次回の9月定例会には、小委員会で検討したたたき台を提案したい。

決定事項

(小委員会の設置)

- ・定例会に提案する提言案文作成や内容調整を行うため、小委員会を設置する。
 - ・小委員会は主メンバーだけではなく、可能な限り全委員の参加により運営する。
- 「主メンバー」 須永議長・内田副議長・木下委員・沼本委員・服部委員

(小委員会日程)

- 1.8月28日（木曜日）午後2時から4時
- 2.9月10日（水曜日）午後2時から4時

(3) その他、報告

1. 関東甲信越社会教育研究大会事例発表紹介原稿について

事務局：

資料3「関ブロ大会事例発表原稿」のとおり、発表紹介原稿を提出した。校正の機会があるので、お気づきの点があればその時に修正したいと思う。

議長：

発表に与えられた時間は20分程度である。西東京市の社会教育委員の会議でどんな取り組みがされているか等については時間的に話しは出来ないと思う。発表は主に西東京市の地域資源の活用事例①から⑦の中から、選んで話をしたいと思う。11月の発表まで時間があるので、またご相談したいと思う。

2. 社会教育員関係委員懇談会（7月31日）の報告

議長：

懇談会には、社会教育委員9人、公民館運営審議会委員4人、図書館協議会委員6人で19人の参加があった。今後も、こういった社会教育全体を俯瞰した集まりが継続出来ればと思う。

○議長：

以上で本日の社会教育委員の会議（8月定例会）は終了する。

※次回会議 平成26年9月22日（月曜日）午後2時